# 地域密着のボランティア活動
# ～未来へのつながりを学ぶ～

岡山県立和気閑谷高等学校
主幹教諭　大野浩志

## はじめに

岡山県立和気閑谷高等学校は，県東部の和気町にあり，普通科（１学年２クラス）とキャリア探求科（同２クラス）の２学科からなります。寛文１０（１６７０）年に備前藩主池田光政公が設立した日本最古の庶民の学校「閑谷学校」を源流としています。閑谷学校の釈菜（せきさい：孔子を祀る儀式）では本校の教職員が祭官を務めたり，全校集会では体育館で論語朗誦を行ったりなど，閑谷学校の学びの精神を受け継いでいます。

## 閑谷学校ボランティアガイド

本校では，多くのボランティア活動を行っています。その中心の１つが閑谷学校でのボランティアガイドです。

平成２０年，当時の３年生３人から「自分たちで地域に貢献できることはないか」と声が上がり，閑谷学校のガイドを始めました。歴史，建築意匠，歴史的遺品等について研究し，その成果をガイドという形で発表するものです。現在では生徒会が主体的に運営し，先輩生徒が後輩生徒を指導する仕組みもでき，自律的な活動になっています。平成２５年度は２４人がガイド登録し，土・日・祝日を中心に２人１組でガイドを務めています。地元の方からは「ガイド頑張っているね」と声をかけていただいています。観光客の方からは「高校のホームページで見ました」と言っていただいたり，感謝の礼状やメール，写真が何通も届いたりしています。

当初は一人ひとりが調べた内容をもとにガイドを行っていましたが，平成２４年に「ガイド本」をまとめ共通の内容でガイドができるようにしました。写真等をラミネート加工して見やすくしたり，子どもたちにはクイズ形式でガイドをしたり，と工夫を重ねています。平成２５年１月からはタブレット端末を導入し，例えば鶴鳴門の説明に実際の鶴の鳴き声を聞いてもらうなど，生徒のアイディアを活かしたガイドは進歩し続けています。

**生徒の成長とＥＳＤ（持続発展教育）**

自分たちで調べ，まとめ，発表（ガイド）する，というサイクルの中で生徒は着実に成長しています。例えば「コミュニケーションが大切」という抽象的な表現は「相手の方を向いて話す,まずは相手の話を聞く」という具体的な表現と行動に変化していきます。自分の考えや心をどのように態度に示したらよいかを考えたり，「相手の笑顔を見られることがこんなにも幸せなんだ」と，異なる世代の方と接する中で自分の存在が誰かのためになっていることに気づく喜びを感じるようになってきています。

生徒の感想には「本校のモットーである“Build up new tradition!”は，“It's our turn to build up new tradition!”として生徒たちに受け継がれています。」また「互いの文化を理解して尊重し互いを認め合うことは，文化と文化がつながりを持ち，続いていくということだと私は考えます。そして続いていくということは，その文化・歴史・伝統が人から人へ受け継がれるということです。」のように，自分という枠を越えて人と文化のつながりを考える内容も現れてくるようになりました。このことから平成２４年に「ボランティアを通じたＥＳＤの事例」としてユネスコのホームページで紹介していただきました。

**最後に**

本校が行っているボランティア活動は，他にも学童保育，エコキャップ運動，町や町内会の行事への参画など多岐にわたり，参加者数は年々増加しています。ボランティアの心の裾野も広がっています。ＬＨＲで「七夕飾りを作って幼稚園と交流しよう」「学童保育で使ってもらえる遊具を作ろう」「カルタを作って福祉施設と交流しよう」という企画がクラスから自然と出てきます。派手さはありませんが地域に根付いた和気閑谷高校らしい活動が，生徒たちによって今後も続いていくと信じています。

３年生が作成した標語を紹介して拙文を終えます。

「ボランティア　未来に繋げ　優しい心」

【本校 HP・ユネスコスクール関連 URL】
http://www.wakesizu.okayama-c.ed.jp/unesco_esd.html